



「森永卓郎氏の最期から学んだこと」

皆様こんにちは。

週末、関西は雪の影響で高速が閉鎖となり全滅でした。。

白馬でスキーの予定をしていましたので、気合で下道を飛ばして行ってきました。

先日、経済評論家の森永卓郎氏が亡くなりました。

氏は23年12月にすい臓がんステージ4と診断され、来年の桜は見られないだろうと

医者に告げられたそうです。

しかし氏は残された時間を精一杯使って精力的に活動され、数力月前には1ヶ月完徹で、13冊もの本を執筆されたそうです。

本人はYouTube等でも‘人体実験だー’などと明るく振舞い、最後まで使命を尽くされました。

本当に壮絶な人生で、最後まで社会に貢献しようとする姿勢はぜひ見習いたい所です。

謹んでご冥福を祈りたいと思います。

氏の偉大な功績である「ザイム真理教」、つまり財務省批判については、別の章でやりたいと思いますが、今回のテーマはこの‘癌’についてです。

現在の日本では、三人に一人ががんで死亡するとされ、国民的病となっています。

ああこの人もか...となんとなく流してしまいがちですが、実はこの60年間で4倍！にもなっています。※1（下段添付）

裏を返せば、かつて日本人は癌になりにくい民族であったということです。

実はかつてアメリカでも同じようなことがあり、癌の死亡率増加に悩んでいました。

「アメリカは戦争ならどこのも負けないが、このままいけば自国民の病で滅ぶだろう」といわれ、1977年には現在のお金に換算して25兆円もの治療費がかかっていました。

（現在の日本は15兆円）※2（下段添付）

その当時の大統領だったフォードは、治療より予防対策に重きを置く方針転換をして、ジョージ・マクガバン上院議員を委員長とする栄養問題特別委員会を設置。

医師・薬学研究者など3000人もスタッフを集め200億円の巨費を投じ、2年間かけて調査した結果を5000ページにも上る「マクガバン・レポート」として発表しました。

主な結論としては、

1. 「今の医学では病気は治せない」
2. 「肉食中心の食生活では健康を維持できない」
3. 「砂糖が病原食材」

というものでした。

以前のメルマガで現代医学が根本的に間違っている可能性があると書きましたが、アメリカでも50年前に同じ結論が出ていたという事です。前回のそのメルマガで参考にした「千島学説」も同時期に発表されています。

50年前に皆で一旦振り返って、じっくり根本的にやり直していれば、現代の医学はもっと素晴らしい物になっていたでしょう。

因みにマクガバン上院議員は、医師会や製薬業界、畜産業界などから猛烈にバッシングを

受け、次の選挙で落選してしまったそうです。
なんかこの前のコロナワクチンと似たような感じですね...

森永氏のすい臓がんステージ4も、通常であれば数カ月で亡くなるパターンですが、結果として1年以上常人より活発に活動したので、「原因不明癌」というわけのわからない病名に変更されています。

私は彼が初期に行った抗ガン治療が、死期を速めた可能性さえあると思っていますし、少なくとも必要な治療ではなかったという事は明白です。

マクガバンレポートに戻りますが、これらの慢性病は、肉食中心の誤った食生活がもたらした食原病であって、医薬では治らない。」とし7項目の食事改善の指針を推奨しました。

- (1) 主食は全粒穀（未精製・未精白穀物）
- (2) 豆類を食べる
- (3) 野菜を多食し野菜は生食
- (4) 砂糖消費を減らす(特に漂白されたもの)
- (5) 魚介類を食べる
- (6) 乳製品・卵は控える（動物性食品）
- (7) 獣肉食は控える、避ける

因みに、癌などの原因でないかと思われるものの中に、食品添加物やそれらを使った加工食品が頭に浮かびますが、これらが一般的になったのは1980年頃からで、実はそこまで影響がない可能性もあることが注目に値します。

またタンパク質と癌の関係にも言及し、「動物性タンパク質の摂取量が増えると乳癌、子宮内膜癌、前立腺癌、結腸・直腸癌、膵癌、胃癌などの発生率が高まる。これまでの西洋風な食事では、脂肪とタンパク摂取量との相乗関係が有り、結果的に癌が発生しやすい体質ができる」とも述べられています。

まあざっと見た感じ、「昔の日本の食事がいいですよ」という結論になってしまいますが...

因みに私が大好きな医師で、コメンテーターの木村盛世氏によると、日本では‘癌’は早期発見早期治療がベスト’と言われていますが、これは全く根拠はなく、単なる医療機関のセールストークで、医師はがん検診を受けない人が多い。

しかも、‘癌’を早期発見・早期治療したとしても寿命は延びない’という事は、ほぼ間違いなく、世界的な医学界のコンセンサスであるとのこと。

ここは多くの皆様が以外に思われるのではないのでしょうか？

またマクガバンレポートに戻りますが、日本とは対照的に、アメリカはがん患者が年々減ってきており、がんによる死亡率も日本の半分になっています。※3（下段添付）

やはり我々は、先人たちが築いてくれた素晴らしい日本食をあらためて見直す時期がきているのではないのでしょうか。

最後にちょっと本題から外れますが、あまりにも衝撃的なデータなので、つけておきます。日本のエンゲル係数(食費の割合)がG7で首位になったという不名誉なデータです。

※4(下段添付)

これでは食を見直すといっても、もうどうしようもないかもしれませんね。

まとめ・・・意外なこと4選

健康食の先進国である日本ではどんどんがん患者が増えているのに、肥満体国のアメリカのがん患者は減っている。

今の医学では病気は治らないと、アメリカではもう50年近く前に結論付けられていた。

がんの早期発見・早期治療とか言っているのは日本だけ、儲かるのは病院だけ

思った以上に日本は貧乏、先立つものがなくなり、健康も失うのか...

ブラックスワン食糧保障

草間 弘人

※1画像.jpg出典[2.がんの動向 | がんについて | 各種がんに関する情報 | 保健・福祉のページ | SGホールディングスグループ健康保険組合](#)

※2画像.jpg出典<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/backdata/1-2-1-09.html>

※3画像.jpg出典<https://progressreport.cancer.gov/end/mortality>

※4画像.jpg出典

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO84854750X11C24A1MM8000/>

正しく表示されない場合は[こちら](#)

今後も引き続きメールの受信を希望される方は [こちらをクリック](#) してください。今後メールの受信をご希望され

ない方は、こちらから[配信停止手続きが行えます。](#)

大阪市港区 弁天1-2-1

[配信停止](#)

